

令和3年度 自己評価結果

世田谷区立松沢小学校

No	評価の観点	肯定的評価	否定的評価	具体的な改善策
1	ユニバーサルデザインの指導や環境整備を徹底し、「分かる授業」を実践しながら、児童が学びの成果を実感できるようにする。	92%	6%	・黒板横の掲示を全校で揃える。
2	ICTを活用しながら「子ども一人一人が課題を見付け、その解決のために必要な情報を収集し、それらを整理・分析して解決案など自分の考えをまとめ、表現していく」問題解決的な学習を繰り返し行い、探究的な学びの実現を図る。	100%	0%	
3	一人一台のタブレット端末を、一人一人の興味・関心や理解度、学び方に応じた「個別最適化した学習」を実現するためのツールとして活用することで、一人一人の能力の育成を図る。	98%	2%	・環境がまだ整っていない ・効果的に活用している一方で、授業時間外での使用、YouTube視聴などの課題がある。 ・家庭との連携も必要である。
4	アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、児童の自己肯定感やコミュニケーション能力を高める授業を行う。	100%	0%	
5	発達段階に応じた語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど、情報を正確に理解し、適切に表現する言語能力を育成する。また、学習の基盤としての言語活動の充実を図る。	100%	0%	
6	説明的な文章の学習を通して、児童の国語力を高める研究を推進し、児童が主体的に読み、表現する力を育成する。	100%	0%	
7	算数科の指導において、1・2年生は講師を配置したTTによる指導、3～6年生は、加配教員と講師を配置した習熟度別指導を行い、学習内容の定着を図る。また、東京ベーシックドリルを活用し、4年生までに身に付ける学習内容の定着を図る。	100%	0%	算数少人数は、単元ごとに学年会に入り、習熟度別指導の計画と教材を提案する。また、ベーシックドリル(またはキュービナ)の計画を立てる。
8	音楽・図工・家庭科等の芸術教科や芸術活動を通じて、心を動かす体験を味わわせ「豊かな感性」を育む。	100%	0%	
9	体力テストの結果を分析し、課題を明らかにし、体づくり月間を充実させ、休み時間にも運動に取り組めるようにしたり、体育の指導内容の重点化を図ったりして、体力や運動能力の向上を図る。	85%	10%	○体力テストについて ・体力テストの結果を学年で周知する。(結果は配布済) ・体力テストの結果の分析を体力向上部で検討する。 ～数値が低い種目を高めるような手立て～ ・年間計画の軽重、準備運動の工夫、日常でできること ○体力向上の取組 ・体づくりについては、全学年年間計画を位置づけて、体育の時間に指導計画に沿って指導する。 ・体力向上を図る取組として、2学期は長なわ週間、3学期は持久走週間を設け、取り組ませる。
11	5・6年生の外国語科【英語に親しむ】、3・4年生の外国語活動【英語に慣れる】を中心に、様々な外国文化に触れ、日本人としてのアイデンティティや多様性を確立する教育を実践する。	98%	0%	
12	センター移動教室にあたっての事前学習、事後学習を充実させ、異文化に親しみ、楽しもうとする心を育てる。			新型コロナウイルス感染症対策のため実施せず
13	道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方について考えを深める道徳科の授業実践を通して、本校の児童の特性を踏まえた、よりよく生きるための道徳実践力の育成を図る。	100%	0%	
14	道徳教育推進リーダーは、研修で学んだことを教員に伝えて道徳教育を推進したり、道徳授業地区公開講座の内容を考えたりして、道徳科の指導の充実を図る。	100%	0%	
15	道徳授業地区公開講座においては、全学級で道徳科の授業を公開し、家庭・地域との連携・協力を通して、児童の社会的道徳性の涵養を図る。	100%	0%	
16	キャリア教育を実施し、児童に働くことの意味を考えさせるとともに、将来に対する夢や希望をもたせ、目標に向かって取り組もうとする意欲を育てる。	100%	0%	
17	持続可能な開発のための教育(ESD)を学習課題に設定し、自分の暮らしや地域の課題と結び付けて考え、持続可能な社会の実現を目指す教育を推進する。	100%	0%	具体的な学習課題を提示し、周知する。
18	地域や自然、社会との関わりを通して課題を見付け、解決しようとすることで、実社会や実生活との関わりを重視した横断的・総合的な探究活動を行う。また、地域の人材を積極的に活用し、様々な人と関わる機会を増やすことにより、広い視野をもった豊かな人間性を養う。			十分に実施できなかったため、評価せず。
19	教科「日本語」を通して、日本の伝統・文化の体験を充実させ、日本人としてのアイデンティティを確立する。	98%	2%	
20	教科「日本語」を通して、日本文化を理解し大切に継承・発展させるために、百人一首等を用いてかいた取りを行う。	88%	10%	・年間指導計画に、低学年は、俳句カルタ(通年)、中学年は百人一首を入れる。
21	教科「日本語」を通して、作品に触れ、自分の考えや感じたことなどを豊かに表現し合うことを通して、互いの考えや感じたことをより深めていく。	98%	2%	・教科書の古典分野と日本語の教科書が被っている(高学年)ので、年間指導計画を工夫して削減し、カリキュラム・マネジメントをする。
22	体育学習発表会、音楽会、集会活動などの運営において、児童が活躍する場を設定し、自主性を育てる。	98%	2%	・たて割り班や、全校が混ざる形では厳しい。きょうだい学年での交流を実施する。 ・特別支援学級児童は交流級学級で活動できるようにするなど活動内容を検討する。行事時数は確保できないので、年間指導計画に組み入れ、計画的に活動できるようにする。
23	学級会について、学年の発達段階に応じた運営方法を指導し、課題を見付け、協働して解決していく態度を育てる。	100%	0%	
24	委員会活動やクラブ活動など、特別活動全体を通じて、自ら考え、行動する態度を育てることにより、自己有用感や社会に貢献する態度や能力を育てる。	100%	0%	・委員会、クラブの振り返りは、学期の最後に行う。 ・児童の発表は、金曜日の集会の割り当て日に行い、早めに掲示板などで周知する。
25	「松沢小学校のあいいうえお(あいさつ、いのち、うんどう、えがお、おもいやり)」をキーワードにして、基本的な行動習慣の定着を図る。また、生活指導スタンダードを全校で共通理解して、6年間を通して一貫した指導を行う。	94%	6%	・挨拶に関しては、自分からできない児童が多いが、来年度児童による挨拶運動をしていけば、少しずつ挨拶が増えていくと予想される。継続して指導が必要である。
26	安全指導や避難訓練、地域防災訓練を通して「自分の命は自分で守る」という考え方の定着を図り、自主的に行動できる児童を育てる。	100%	0%	・二次避難も、引き取り訓練も行いません。毎回半分の学年が校庭避難をします。
27	Q-Uテストを活用し、学年・学級経営の具体的な方策を学年で共通理解するとともに、2学期のQ-Uテストとのデータを比較し、学級経営の成果や児童の学級満足度を分析し、学校・学級での居心地を高めるための方策について再構築する。また、要支援群の児童に対する支援計画を作成・実施する。	100%	0%	・来年度にQ-Uテストの分析方法の研修会を実施する。

28	「松沢小学校いじめ防止基本方針」に基づき、定期的な調査、家庭・関係諸機関との連携を通して、「いじめはどんな理由があってもいけないこと」等の規範意識の醸成や、いじめの早期発見・早期対応に努め児童の健全育成を図る。また、「いじめ対策委員会」を設置し、いじめ問題が発生した場合には、組織的に対応を行う。弁護士を招聘し、「いじめ防止授業」を毎年行うことにより、傍観者をつくらぬよう授業を通して専門家の指導を仰ぐ。	100%	0%	・いじめ対策委員会で検討し、早期発見・早期対応ができた。
29	不登校の予兆である登校しぶりの段階を見逃さず、児童や保護者から丁寧に聞き取りを行い、原因を探る。不登校の児童に対しては、学校・家庭・地域が連携協力し、保護者・児童と定期的に連絡を取るとともに、児童の状態や必要な支援を見極め、適切な機関による支援と多様な学び場の機会をつくる。また、不登校児童の出席の扱い等については東京都教育庁指導部指導企画課長からの通知に基づき対応していく。	100%	0%	・不登校児童に対しては、今後も家庭と連携し、根気強く対応していく。
30	児童の事故、病気、その他のトラブルについて、速やかに学年主任、管理職に報告、相談して、組織的に対応することで、問題の早期解決を図る。	100%	0%	・学校として共有するために、児童理解タイム等で、担任が児童や学級について、学年主任は学年について情報発信する。
31	毎月1回、教職員が分担して校内の施設・設備を点検し、日常的な整備に努めるとともに異常があれば直ちに対処し、安全・安心の確保を図る。	100%	0%	
32	月に1度、保護者向け「ほけんだより」、児童向け「ほけんだより」を作成し、健康推進に向けた正しい知識を普及する。また、薬物乱用防止教室では、薬剤師と連携した指導を行い健康に関する興味・関心を高め、自ら健康づくりができる児童の育成をめざす。	100%	0%	朝会での保健指導が児童の良い学びになっている。
33	キャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力である「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育むために必要な取り組みを工夫し「キャリア・未来デザイン教育」の推進を図る。	100%	0%	
34	「キャリア・パスポート」を活用して、児童が学習や生活を見通し、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげ、将来の生き方を考えられるようにする。	98%	2%	・来年度、キャリア教育の研修会実施する。 ・キャリアパスポートの見本を見て何を入れるか年間指導計画に基づき確認する。
35	生きがいをもたらす卒業生、地域の方をゲストティーチャーに招いた授業を通して、働く意味や将来への希望をもたせる指導を行い、進路を選択する基礎的な能力の育成に努める。	100%	0%	・実践事例を、掲示板やミーティングで周知する。
36	肢体不自由学級、知的固定学級、特別支援教室拠点校併設のメリットを生かし、ユニバーサルデザインの授業や共生社会での自立を目指したインクルーシブ教育システムを構築し、特別支援教育の充実を図る。	96%	2%	・今年度作成した、インクルーシブ教育システム推進計画について周知・実践する。
37	人権教育・生命尊重教育を推進し、多様性を尊重した学びや相手を大切にする態度を育成するなど、共生社会を生きるための基礎を培う。	100%	0%	
38	特別支援学級と通常学級との交流を実施するとともに、副籍児童が所属する学級と交流する機会を設けるなどして、障害のある児童に対する正しい理解と認識を深める。特別支援教室で指導を受ける児童について、すまいる教室の教員と在籍学級担任が、対象児童の抱える困難さを把握し、両方で協議して指導方針を立てる。すまいる教室の教員から報告を受けた効果的であった指導や支援の方法は、在籍学級で活用し、指導の充実を図る。	94%	4%	・交流授業に使用する「Teams」などの研修はICT部と相談し進めていく。 ・月一回(金)拡大学年會を設け、そこで児童の様子や行事の確認や情報共有を行い、交流の計画を相談していく。
39	校内委員会を適時開催し、特別な支援を要する「困り感」を抱えた児童について共通理解し、一人一人の個別支援ファイルを作成し、学年・学校全体での支援を充実させる。	100%	0%	随時、校内委員会を開催した。
40	入学当初は「世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム」を基に、生活科を核にして他教科や領域と連携した活動が中心の協同的なカリキュラムを編成し、遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動からの円滑な移行を図る。小1サポーターを積極的に活用し、児童がスムーズに学校生活に慣れるようにする。	94%	4%	入学してから4週間分のスタートカリキュラムを作成している。来年度は、セカンドステップを導入し、指導計画に沿って、全学級同じ内容を指導する。学年だよりを毎週発行し、保護者にも周知している。
41	1年生生活科の年間計画に、近隣幼稚園・保育園と交流をする時間を位置付け、幼児が小学校生活に親しみや期待を寄せ、近い将来を見通すことができるようにする。また、松沢中学校や赤堤小学校との交流を深め、幼保小中の連携を図る。	90%	6%	・直接交流はできていないが、学校の様子を伝える動画を届けるなど間接交流はしている。
42	税理士による「租税教室」、講師等による「平和教育」を行い、シチズンシップ教育の推進を図る。	96%	2%	・来年度も4年と6年で実施予定である。
43	人格形成や情操を養うために、朝読書や読み聞かせを実施するとともに、学校図書館の利活用と読書活動を推進する。	100%	0%	・読み聞かせボランティアに次年度も協力していただく。
44	川場移動教室や日光林間学園の宿泊学習、校外での学習の充実を図るとともに、地域・保護者・企業等、外部の教育資産(アウトソーシング)を活用し、体験を重視した学習活動を推進する。	100%	0%	
45	オリンピック・パラリンピック教育の実践を通して、児童に「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」等の資質を身に付けさせる。また、子どもたちにとって多くのレガシーを創出させる。	98%	0%	
46	食物アレルギーのある児童への深い理解を通して、安全で安心な給食指導を行う。また、食育の全体計画及び年間指導計画に基づき、様々な体験的活動や交流給食など児童が楽しく食を学ぶ取り組みを行ったり、世田谷産の農産物を使用した献立を積極的に取り入れたりして、食に関する興味・関心を高める。	100%	0%	
47	学校ホームページを適宜更新するとともに、学校生活のブログにより、各学年等の近況をタイムリーに発信することで、保護者・地域との連携を図る。 ス学校運営委員会・学校地域支援本部と連携し、保護者・地域・卒業生が教育活動に参画する学校運営を推進する。	98%	2%	・更に充実を図るため、各学年・ICT部が週ごとにアップしたかを確認したり、担当クラスの担任に声をかけたりする。
48	教職員の指導力を高め、学校を支える人材としての育成を行うために、学校運営組織をOJTとするとともに校内研究や各種研修の活用を図る。 児童と触れ合う時間を確保したり、ライフワークバランスを醸成したりするための働きかたの改革を推進する。またスクール・サポート・スタッフ(SSS)を活用し、教職員の校務軽減を図る。	100%	0%	・スクール・サポート・スタッフに次年度も活躍していただきたい。東京都教育委員会表彰での実践を生かしていく。
49	学校経営計画に基づき、事務局が主導して予算委員会を運営し、予算の活用と重点化を図り、計画的に執行する。	100%	0%	
50	私費会計については、校内規定に基づき、会計事故防止に向けた事務処理を適切に行う。	98%	2%	
51	日常の校務遂行での「報告」「連絡」「相談」徹底するとともに、OJTを重視して、職層に応じた指導を個別に明確にするとともに、主任教諭による若手教員のためのミニ研修会を計画的に実践する。	100%	0%	
52	教職員は、児童を指導する立場にあることを自覚し、常に人権感覚をもち、保護者や地域から信頼されるようにする。	100%	0%	
53	体罰、交通事故0はもとより、服務の厳正については、具体例をもとに徹底を図る。個人情報、金銭の管理については、校内規程に基づき高い意識をもって行う。	100%	0%	
54	学年、学級経営、校務分掌上の各種手続きについては管理職・主幹と相談しながら確実に処理する。	100%	0%	